

【自由題・詩】

小学生の部



ともなり文芸大賞

私の宝物

東小学校六年 長島 萌咲

私の宝物

海で拾った綺麗な貝殻

遊園地で見つけたカラフルな文房具

友達と何気ない話を書きあった手紙たち

好きなアニメのキャラクターのコップにキーホルダー

学校の帰り道、いつも待っていてくれる黒い猫

幼い頃から遊んでいた古い猫脚のピアノ

水族館で自分で買ったイルカのぬいぐるみ

サンタさんがくれたおしゃべりアルパカのおもちゃ

大好きなおじいちゃんが大事に育てていたバラの花

難しい宿題で困ったとき勉強を教えてくれるお姉ちゃん

毎日おいしいご飯を作ってくれるお母さん

いつも私に元気をくれる家族の笑顔

私はたくさんの宝物に囲まれて生きている

これからもきつとたくさんの宝物が増えていく

私がたくさん宝物たちに支えられているように

いつか私も誰かの宝物になれたらいいな。

【自由題・詩】 小学生の部

ともなり文芸準大賞

ぼくはえんぴつ

矢板小学校二年 田中 善仁

ぼくはえんぴつ

いつもふでばこの中ですごしている

ふでばこの中はまっくらだ

すしこわいけどなかまがいる

けしごむくん じょうぎくん 赤青えんぴつちゃん

みんなあわせてぶんぼうぐ

学校のじゅぎょうやしゆくだいをしているとき

きみはぼくをぎゅつとにぎってくれる

そとのせかいはとてもあかるくて

ほんのりあたたかい

気がつけば ぼくのからだはみじかくなっていた

そんなぼくをきみはつかわなくなった

ぼくは思った

ずっといつしよにいたい

ぼくはべんきょうをがんばっているきみがだいすきだ

たいせつにつかってくれてありがとう

【自由題・詩】 小学生の部

ともなり文芸奨励賞

過去と未来

泉小学校五年 吉成 悠真

もし 過去の自分に会いに行けたなら
なんて声をかけるだろう

「よくがんばっているね」？

それとも

「もう少しがんばらないと」？

そんなことを考える

時間は巻き戻すことができない

「あの時もう少しがんばっていれば・・・」
と思うこともある

でも未来はいくらでも変えることができる

目標を持って進んでいこう

未来の自分が笑っていられるように

【自由題・詩】 小学生の部

入 選

文鳥の銀ちゃん**と**ぼく

矢板小学校四年 高山

芳

ピッピッピッ

かわいい声が聞こえてくるよ

鳥かごの中

黒とグレーのおまんじゅう

モチモチ銀ちゃん**か**わいいな

ピッピッピッ

かわいい声が聞こえてくるよ

今日は鳥かごの中をいそがしそうに飛んでいる

ダイエツトかな

ぼくはおまんじゅうすがたの銀ちゃん**が**お気に入り

ダイエツトは**ほ**どほどにね

ピッピッピッ

今日は**ど**んな銀ちゃんかな

【自由題・詩】 小学生の部

入 選

みんなでたのしい夏やすみ

矢板小学校五年 高瀬 愛凜

みんなみんなみん

ないている

でできた虫たち

たのしそう

のらねこぐうぐうねむってる

しずまるセミ

いま何時かな

「なかななくなった？」

ついついひとりごと

やっとおわったしゆくだいと

すずしい部屋で

みみをすませてきいている

【自由題・詩】 小学生の部

入 選

かん字テスト

東小学校二年 本橋 紬季

ドキドキ

むずかしいかな

ドキドキドキドキ

まちがえないかな

シーン

とおくの教室の音が聞こえる

カリカリカリカリ

みんながんばってる

えんぴつもって

もんだいだけ見て

しゅう中しゅう中

ドキドキ

書きわすれはないかな

ドキドキドキドキ

百点とれるかな

たくさんれんしゅうしたから

きつと大じょうぶ

えんぴつおいて見なおし五回

百点とれますように

ドキドキ

ワクワク

ドキドキ

【自由題・詩】 小学生の部

入 選

いもうとのたんじょうび

泉小学校一年 土屋 陽詩

いもうとのたんじょうびに
すいぞくかんにいったよ。

大きなすいそうから
とどのこえがしたよ。

いもうとは

「かいじゅうだ。」
といたよ。

「ひかりちゃん
かいじゅうじゃないよ。

とどだよ。」

わたしは、おしえてあげたよ。

「はあ、よかった。」

いもうとがいったよ。

いもうとは

あわてんぼだよ。

でも、かわいいよ。

ひかりちゃん、

4さいおめでどう。

これからも4歳なんですよ
いっぱいあそぼうね。

大すきだよ。

【自由題・詩】 小学生の部

入 選

ロック

安沢小学校二年 村上 颯汰

夏休み

ついに犬をかった
名前はロック

黒と茶のふわふわ

おなかはあたたかくて
ハムのような大きな耳は
走るとゆれる

ぼくが学校に行くとき

ロックはいつも

かなしそうな声でなく

だからぼくは

ママより早くおきて

さんぽにつれて行く

だけど

みんなの足をかじるから

いつもママにおこられる

でも

ぼくがまもってあげるんだ
ずっとずっと